

子ども読書支援センターニュース No. 138

2015. 12. 1

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

「子ども読書支援センターニュース」は、メールマガジン「本はともだち」でも読むことができます。新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会（クリスマススペシャル）

○日時：12月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

★新刊児童書閲覧会

○日時：12月12日（土）13：30～15：30 ○会場：山口県立山口図書館 ○内容：新刊児童書の紹介
○対象：図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等子どもの本に関心のある者
○定員：30名（要申込み、先着順）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『ちいくまちゃんとしまくまちゃん』 かむむらすずみ/作・絵 ひさかたチャイルド 2015.10 ¥1,100

白クマのちいくまちゃんと、ぬいぐるみのしまくまちゃんは仲良しで、いつも一緒。今日は雪遊びをするよ。雪玉丸めて、ぎゅっぎゅ。雪だるまだよ。今度は雪をたくさん集めて、そりすべり！雪山に穴を掘って、かまくらを作ったら、迎えに来たお母さんも一緒に皆でぼかぼか嬉しいな。北海道在住の作者による、雪遊びの楽しさがつまった、冬にぴったりの絵本。

<絵本—3, 4歳から>

『わがまんまちゃん』 こがようこ/ぶん・え 大日本図書 2015.10 ¥1,300

みうちゃんの、炊きたてご飯が入ったお茶碗から飛び出した大きなご飯粒、わがまんまちゃん。お願いされて胡麻で顔を作ってあげると、今度はお腹がすいた、おにぎりがいい！と大暴れ。困ったみうちゃんだが、わがまんまちゃんの歌うおにぎりの歌にのって真似して握ったら、見事なおにぎりが完成！もりもり食べる姿に大満足、愉快的なキャラクターが魅力的な一冊。

『ひやくえんだま』 ねじめ正一/作 荒井良二/絵 鈴木出版 2015.10 ¥1,200

百玉玉を貰って、嬉しくて、ぎゅうっと握って眠ったら、朝目覚めると手の平にくっついていて！一生懸命はがすと、跡がついていて、そこから、百玉玉がどンドン湧いてきた。ベッドの高さに、ついには部屋中いっぱい…？子どもが抱く、自由奔放な空想を具現化し、さらなる想像力をかきたてる絵本。膨らんだ風船のようにになった話を綺麗に収める終わり方は見事。

『ちいさなかいじゅうモッタ』 イヴォンヌ・ヤハテンペルフ/文・絵 野坂悦子/訳 福音館書店 2015.10 ¥1,600

小さな怪物モッタは、7人兄弟の末っ子。兄達は皆強く大きく、おどかしっこが大好き。モッタも同じようにおどかしてみるのが、怖がるどころか、可愛いなあと笑って撫でられるだけ。拗ねたモッタは、森であることを思いつくと、機転を利かせて兄達を怖がらせることに成功し…。皆に認められ、満ち足りて眠りにつくモッタに嬉しくなる、オランダの可愛い絵本。

<絵本—5, 6歳から>

『女王さまのぼうし』 スティーブ・アントニー/さく せなあいこ/やく 評論社 2015.10 ¥1,400

イギリスの女王様がお出かけ。すると風が吹いて、お気に入りの帽子を吹き飛ばしてしまった。帽子は高く舞い上がって、衛兵達も追いつけない。風にどンドン運ばれて、トラファルガー広場を越え、ロンドン動物園を抜け、帽子が舞い降りた先は…。女王様と共にロンドンの街を巡る旅が味わえる絵本。赤いマッチ棒のような衛兵達がせせと帽子を追う姿がユニーク。

『もうぬげない』 ヨシタケシンスケ/作 ブロンズ新社 2015.10 ¥980

お母さんが僕の服を急いで脱がそうとするから、引つかかって脱げなくなっちゃった。1人で脱ぐからっていろいろやっただけど、脱げない。ずっと脱げなかったらどうしよう。このまま大人になるのかな。そうだ！脱げないなら脱がなきゃいいし、工夫すれば大丈夫！でも、お腹が寒くなってきたぞ…？男の子の想像が果てしなく広がって行く様に大笑い。オチも抜群。

『ぼくらちきゅうじんたいひょう！』 くすのき/しげのり/作 よしながこうたく/絵 講談社 2015.10 ¥1,400

今日は待ちに待った遠足。先生から、他の星から来た宇宙人が見ているかもしれないから、「地球人代表」のつもりで行動してくださいと言われた。驚きながらも、お店見学の時や道路を歩く時も、その気になって凛々しく行動していたら、本当にいろんな宇宙人に会って…？知識として知っている公共マナーを楽しく実践する様子を、ユーモア溢れる絵で描いた絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『あなこ』 長谷川集平/作 解放出版社 2015.10 ¥1,600

ひろしはしろうを誘い、キャッチボールを始めた。家族や友達が通りかかり、声をかけていくが、構わず続け…。ついにボールは穴に落ちるが、その後埋められた穴には、2人の大事なものが埋まっているとを感じる。言葉を必要としない車校生との心の交流が感じられる絵本。

<読み物—低学年から>

『大きくてもちっちゃい かばのこバオ』 森山京/作 風濤社 2015.10 ¥1,300

からだは大きくても、まだまだちっちゃな子どものかば、カバオくん。川上から流れてきた名前入りのおもちゃの舟を自分のもの

にしたかったり、お母さんとけんかをしてよそのうちの子になると家出をしたり。子どもならではのカバオの言動に共感でき、温かい気持ちになれる。友達の小熊や猫、こぶたたちの楽しいお話もある。偕成社 1984 年刊の再刊。

<読み物一中学年から>

『2分の1成人式』 井上林子/著 講談社 2015.9 ¥1,300

小学4年生の女の子・ユメは、2分の1成人式の文集に載せる将来の夢に、何を書こうか悩む。幼稚すぎてアニメの「魔法少女マリリン」になりたいという夢みたいな夢を書くわけにはいかない。写真家になりたいという幼馴染ののぞみは、ユメに寄り添い励まし、二人はお互いを応援する仲に。2分の1成人式を初めて経験する4年生に、ぴったりの本。

<読み物一高学年から>

『ニコラといたづら天使』 キャロライン・アダーソン/著 田中奈津子/訳 講談社 2015.10 ¥1,400

小5のニコラの家のメスの子犬ジュンバグ。いたづら過ぎて家族は堪忍袋の緒が切れそう。ニコラは何とかして名誉挽回し、家に置いてもらえる様にと、ジュンバグと共に老人ホームの慰問に出かける。そこで見たものは…?やんちゃすぎる子犬・ジュンバグと、心やさしいニコラの物語。カナダ子どもの本センターのキッズ&ティーンズ向けベストブックズに選ばれた本。

<読み物一中学生から>

『白をつなぐ』 まはら三桃/著 小学館 2015.10 ¥1,400

本番で何が起ころうかわからない駅伝。広島で開催される都道府県対抗男子駅伝に選ばれた福岡チームの選手たちが、それぞれの思いを胸にたすきをつなぐ。中学生、高校生、大学生、社会人、期待の新人、箱根駅伝のスター選手、記録を持たない実業団選手…。個性豊かな彼らを監督と地元応援団が温かく見守る。JBBY 賞受賞作家が長距離の魅力を描く。

『ぼくたちに翼があったころ コルチャック先生と 107 人の子どもたち』 タミ・シエム=トヴ/作 樋口範子/訳 福音館書店 2015.9 ¥1,700

ただひとりの身内として慕う姉に手放され、「孤児たちの家」に入所した少年ヤネク。子どもたちの自主的な運営に任されたそこでの生活に戸惑い、友情を失ったり、盗みをして悩んだりしながら、新聞記者になる夢を持つようになるが…。1934~39年のポーランドを舞台に、愛と尊厳に満ちたコルチャック氏と子どもたちの日々を再現する。レアゴールドバーグ児童文学賞他受賞作品。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『さよなら、ねずみちゃん』 ロビー・H.ハリス/作 ジャン・オーメロッド/絵 飛鳥井望・亀岡智美/監訳 遠藤智子/訳 誠信書房 2015.9 ¥1,700

ある朝目覚めると、夕べまで元気だったペットのねずみちゃんが死んでいた。死を認めたくなくて怒り、後に悲しくて大声で泣いてしまうぼく。死別を初めて体験する子どもに、死を受け入れることの大事さを丁寧に心に響く言葉で伝える1冊。子どものトラウマ治療のための絵本シリーズ。他に「こわい目にあったアライグマくん」「ねえ、話してみて」

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『世界の人びとに聞いた 100 通りの平和』 伊勢崎賢治/監修 かもがわ出版 2015.10 ¥2,500

日本での生活経験のある世界 16 カ国の人々に、「平和」という言葉でどんなイメージをもつかをインタビュー。そこに出てくる、その国の歴史や、今抱えている国際問題などを、丁寧にわかりやすく解説。世界の人々がそれぞれの立場で平和を願い、どのように平和を実現しようとしているかを伝える。「中東」「アメリカ・アフリカ」「アジア」「ヨーロッパ」の全4巻。

<ノンフィクション一中学生から>

『8 きっぷ』 朝日新聞社・朝井リョウ/著 朝日新聞出版 2015.10 ¥1,400

人生の岐路に立った18歳の選択は?愛知、岐阜、三重に住む18歳の少年少女に取材し、いくつかの質問と彼らの素顔をポートレートとともに紹介する。仏道を志した者、消防学校へ進学した者、居酒屋の店長を任された者など様々な選択をした輝く若者の姿と1年後の様子を伝える。「朝日新聞」名古屋本社版連載を再編集し、朝井リョウのエッセイを加えた。

<研究書>

『メディアにむしばまれる子どもたち 小児科医からのメッセージ』 田澤雄作/著 教文館 2015.9 ¥1,300

小児科医としての40年の経験から感じた子どもとメディアの問題について、全国で講演してきた内容をまとめたもの。「こころの外來」にやってきた子どもが描いた絵や睡眠中に見た夢などの具体例をあげて、「家族の絆」を失うメディアの問題を明らかにし、大人としてこの問題にどう取り組んでいくべきかを示す。斎藤教夫・脇明子等の支援により誕生した本。

『サンタクロースの部屋 改訂新版 子どもと本をめぐって』 松岡享子/著 こぐま社 2015.11 ¥1,600

1978年出版のロングセラーを、文字を大きく、若い読者にも手に取りやすい装丁にした改訂新版。幼い心にサンタクロースなど不思議のすめる空間を作ることの大切さ、大人が心を込めて本を読んでやることの意義、子どもの楽しみとしての本の力…。筆者の体験に基づいた言葉は、40年以上の時を経ても変わらない力を持って、今の本と子どもをつなぐ人々の助けとなる。

【県内の動き】

★長谷川義史クリスマス絵本ライブ~こどもたちGO~

○日時:12月6日(日)13:00~14:30 ○会場:山口市民館 小ホール ○対象:3歳位から ○定員:300名
○チケット:大人800円・こども500円(当日:大人999円・こども500円)

○照会先:こどもと本ジョイントネット21・山口(山口:090-3636-2617)

★学校図書館講演会「自主的な学びを育む学校図書館」~高等学校司書の実践活動~

○日時:12月6日(日)10:30~12:30(講演会)13:30~15:30(意見交換・情報交換)

○会場:山口県立山口図書館 ○講師:高橋和加(鳥取県立鳥取西高等学校司書)

○対象:学校図書館、子どもの読書に関心のある者 ○資料代:500円

○照会先:学図やまぐち事務局(藤村:0835-21-3643)

★絵本でわくわく子育て講座 ~孫ができたらの絵本読み~

○日時:12月12日(土)13:30~15:00 ○会場:山陽小野田市立中央図書館 ○講師:村中李衣(児童文学作家)

○定員:30名(要申込) ○照会先:山陽小野田市立中央図書館(0836-83-2870)

★児童文学わいわい講座

○日時:12月12日(土)10:00~12:00 ○会場:山陽小野田市立中央図書館 ○講師:村中李衣(児童文学作家)

○定員:20名(先着順) ○照会先:山陽小野田市立中央図書館(0836-83-2870)